

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義	石川 和美		
ITリテラシー								時間数(単位)	30(2)	授業回数
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）										
大学、専門学校、企業、PCスクールでOffice系資格対策講座の実施経験があり、有資格者の教員が授業を実施します。Windows（ハード）で、Micrisoft365（TEAMS＝学校の授業資料のダウンロードや課題提出等、必要な操作が出来る。Word＝効率が良く効果的な文書作成する。Excel＝様々な計算処理を行い必要書類を作成し、また顧客のデータを管理する。PowerPoint＝プレゼンテーションを作成し発表する。）を操作し、将来の仕事や学生生活において効果的に活用出来るように学習していきます。										
〔到達目標〕										
学習を通し、社会へ出た際、どのようなジャンルの仕事であっても、事務処理に困らないためのスキルを習得します。操作をマスターし、さらに機能の理解を深め、将来自分自身の仕事に役立つ使い方が出来るよう学習していきます。また、学習を通じICT活用のマナーを習得していきます。										
〔使用教材、参考文献等〕										
随時、必要に応じてプリント配布										
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	Teamsの基本操作					自身のPC環境と学校のネットワーク環境について理解し、授業データのDL、小テスト、課題の提出等、OneDrive等、必要な操作が出来る。				
2	Word（online）の基本操作					Wordで文書を作成し編集・保存する事が出来る。 作成した文書の保存が出来る。				
3	Word（online）の基本操作2 表現力をアップする機能（画像の挿入と編集） 文書の印刷 表作成機能					文書に画像を挿入し、編集が出来る 学習した機能を利用しチラシを作成出来る 作成した文書を印刷出来る				
4	ページ設定（用紙サイズの設定・余白の設定・印刷の向きの設定） ハガキ作成 テンプレートの活用					必要に応じて、用紙サイズや余白、印刷の向きを設定出来る。学習した機能を利用し、指定された各種はがきを作成出来る（販促・お知らせ） テンプレートを活用し効率よく文書を作成する事が出来る				
5	小テスト（Word）図形描画機能					図形描画機能がわかり、自由に操作が出来る。 学習した機能を利用し、簡略地図が作成出来る／館内案内図を作成出来る				
6	ビジネスメールの作成①outlookを使用したメール送信受信1 ビジネスメールのマナーとメールの作成・送受信・添付ファイル1					ビジネスメールのマナーと正しいレイアウトがわかりメールを作成する事が出来る（送信・受信・返信）				
7	ビジネスメールの作成②outlookを使用したメール送信受信2 好感を持たれるメールの作成と送信・返信・添付ファイル2					相手の状況に応じた気遣いのあるメールの文章を作成出来る/返信のマナーがわかり、正しいマナーでメールを作成し送受信できる CC/BCCを理解し正しく活用する事が出来る 添付データをPDFに変換する				
8	小テスト（ビジネスメールの活用とマナー）					好感を持たれるメールを作成出来る。OfficeアプリのデータをPDFに変換しデータを添付ファイルを作成・送信する事が出来る				
9	Excel（online）の基本操作 表の作成と、関数の基礎（SUM関数/AVERAGE関数/MAX関数）					四則演算が出来る 基本の関数を活用出来る（SUM/AVERAGE/MAX関数） 表に桁区切りを設定出来る。表の書式を自由に変更する事が出来る（線の種類・セルの色・配置）				
10	グラフを作成する グラフ構成要素の書式の設定方法					どんな分析にどのようなグラフが必要かわかる（棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ）入力したデータから簡単な操作でグラフを作成出来る				
11	PowerPoint（online）の基本操作1 PP課題作成①					ブレースフォルダの編集・アニメーションの設定・ノートペインの入力が出来る。PowerPointで課題を作成出来る①				
12	PowerPointの基本操作2 PP課題作成②					PowerPointで課題を作成出来る② 課題を完成出来る				
13	小テスト（PowerPoint 課題を発表する）①					作成した課題を発表出来る①				
14	小テスト（PowerPoint 課題を発表する）②					作成した課題を発表出来る②				
15	期末試験実施					期末試験として課題を提出出来る。課題の発表が出来る 評価と評価の解説を実施する				
〔評価について〕 期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 OfficeはOnlineのアプリを使用する					

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						佐藤 俊生			
理学療法基礎科学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
理学療法に関係のある現象を通じて科学の基礎的な内容(数学・理科)を理解する。 理学療法士として必要な物理学、などの基礎的な科学を学ぶ。									
〔到達目標〕									
理学療法に関連のある科学(数学・理科)の内容を確認し、理学療法学の理解に役立てる。									
〔使用教材、参考文献等〕			〔準備学習・時間外学習〕						
配布資料			授業後には実施内容について復習をすること。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	【オリエンテーション】 授業の目的 【科学的態度について】 グループワーク				授業の目的、科学的態度について説明できる。				
2	【情報収集】 文献検索、PC利用上の注意				インターネットでの情報収集の方法、利用上の注意点について説明できる。				
3	【数字を扱う】① リハビリテーションのコスト				医療保険で理学療法を実施することで生じるコストを計算できる				
4	【数字を扱う】② 神経伝導速度、強さ時間曲線				神経伝導速度、強さ時間曲線に関する計算ができる				
5	運動強度 心拍数				心拍数と運動強度に関する計算ができる（課題あり）				
6	歩行について① 歩行に関わる数値				歩行に関わる数値について説明できる				
7	歩行について② 歩行に関わる数値を算出してみよう				歩行に関わる数値を計算できる（課題あり）				
8	エネルギー① 消費エネルギー				運動量、消費エネルギーの計算ができる				
9	エネルギー② 摂取エネルギー				摂取エネルギーの計算ができる（課題あり）				
10	【力と運動】① 力とは、てこ				力、てこについて説明できる				
11	【力と運動】② ベクトル、ベクトルの合成・分解				ベクトルについて説明できる ベクトルの合成・分解ができる				
12	【力と運動】③ 力のつり合い				力のつり合い、モーメントについて説明できる				
13	【力と運動】④ 重心とは				重心位置を求めることができる				
14	まとめ、これまでの復習				ここまで扱った内容について振り返り、理解を深める				
15	期末試験・振り返り				試験を通じて自分の理解度を確認する				
〔評価について〕 課題 10点×3 期末試験 70点			〔特記事項〕 グループワークなど積極的に参加してください。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員 繁森 将太			
授業科目名				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数	15 (1)	授業 回数	8
いのちの倫理											
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
現在、人間の生命をめぐるどのような問題が生まれ、どのような議論があり、何が問われているのかを学び、医療における倫理観と患者やその家族の思いを推測できる力をつける授業を行なう。授業では、問われている内容を理解し、個人ワーク、グループ共有により理解を深めるため、積極的に参加してほしい。											
〔到達目標〕											
・いのちの「始まり」と「終わり」の間に起こる様々な問題に対し、患者、医療者、患者の家族の視点より推測できる。 ・現代医療における生と死、医療の問題を説明できる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
配布資料											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	倫理とはなにか。生命倫理の最初の問題あなたは、薬や医療設備が足りないとき、治療するひとを選んででもいいと思いますか。					倫理と道徳、法律との違いを区別できる。					
2	いのちの終わりは誰がきめるのか。 自己決定権、延命治療、安楽死、尊厳死、セデーション（鎮静）					生命の尊さを認識し、死に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる。					
3	いのちの始まりはいつか 人工妊娠中絶、					生命の尊さを認識し、生命誕生に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる					
4	いのちの始まりはいつか 出生前診断					生命の尊さを認識し、生命誕生に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる					
5	告知とインフォームドコンセント 告知の是非について					告知における難しさを認識し、自分の考えを述べることができる。					
6	こどもの医療、判断能力は誰が決めるのか。子どもの人権と親権 New トピックス					子どもの知る権利における難しさを認識し、自分の考えを述べることができる。					
7	生体臓器移植 一般の死と脳死の違いについて					臓器移植に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる					
8	総括					授業全体を通して学んだ内容を振り返り、授業内容に対する理解を深める。					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕 評価はレポートで行う。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 出席：3コマ欠席にて単位なし						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								岩佐 浩之			
心理学				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
創業100年の老舗の三代目として、飲食店を経営し、また多岐にわたりビジネスを立ち上げ（国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど）現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業までを経験する。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが心理学をわかりやすく講義します。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
毎回の授業で配布					世の中の動きを見て質問する						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	目標設定・講師自己紹介・オリエンテーション15回の流れ					目標設定の仕方・目標とは何かを理解する。 目標を立てられるようになる。					
2	人脈					人脈の作り方・整理の仕方を学ぶ。 自分の人脈を整理する。					
3	経済的健康 その1 収入の種類					・従業員 ・自営業 ・オーナー ・投資家など収入の種類を理解する。					
4	目標達成の仕方					①情報 ②モチベーション ③イメージ ④願望 15のステップ一つ一つを理解する。					
5	目標達成の仕方					⑤決断する ⑥目標設定 ⑦プランを立てる ⑧夢泥棒 ⑨仲間探し 15のステップ一つ一つを理解する。					
6	精神的健康					心の病気について知り、対処法を身に付ける					
7	身体的健康					病気のメカニズム・対処法を身に付ける。					
8	心理テスト					エゴグラムの実施 自分の心の癖を知る。					
9	マーケティング（流通心理学）・マネジメント					自分自身を社会にどう売り出していくか学ぶ					
10	マーケティング（流通心理学）・マネジメント					様々なマーケティングの基本理論を学ぶ					
11	マーケティング（流通心理学）・マネジメント					様々な企業のマーケティングを学ぶ					
12	コトラー心理学					コトラー心理学の基本を学び、自分の考え方に取り入れる					
13	スティーブン・コーヴィ					7つの習慣を中心に、考え方の基本を学び、いつか使えるようになる。					
14	質疑応答					稲盛和夫の考え方を学ぶ。					
15	定期テスト										
〔評価について〕					〔特記事項〕						
期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					ーコマは、ジグソーパズルのワンピースのようなものです。欠席した際は、情報を取って補ってください。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								岩佐 浩之			
文章リテラシー				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
創業100年の老舗の三代目として、飲食店を経営し、また多岐にわたりビジネスを立ち上げ(国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど)現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業までを経験する。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが心理学をわかりやすく講義します。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
毎回の授業で配布					世の中の動きを見て質問する						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	自己紹介文作成 (履歴書)					自己紹介文を完成させる					
2	自己紹介文作成 (履歴書)					文章を書く時の、構成を理解する					
3	手紙・はがき・メールのルール					実習先への御礼文が書けるようになる。					
4	話し言葉と、文章言葉の違い					話し言葉と、文章言葉の違いを知り、失礼のない文章が書けるようになる。					
5	尊敬語・丁寧語・謙譲語					尊敬語・丁寧語・謙譲語の違いを知り、スムーズに使い分けれるようになる。					
6	自己紹介文作成 (ポエム)					読む人の興味を膨らませ、楽しませる文章が書けるようになる。					
7	実習日誌の書き方 (感想と考察の違い)					考察で表現できるようになる					
8	定期試験										
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕					〔特記事項〕						
期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					一コマは、ジグソーパズルのワンピースのようなものです。欠席した際は、情報を取って補ってください。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部				担当教員			
授業科目名		学年	1	開講 区分	前期	堀内 秀憲			
		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
保健体育									
〔授業の学習内容と心構え〕									
・理学療法士としてスポーツ選手の治療～アスレティックリハビリテーションを行い、選手のパフォーマンス発揮に貢献している教員が、理学療法に必要な科学の基礎的な内容を理解する授業を行う・目指す職種のそれぞれの分野に共通する、そして必要になる知識でもあるため、積み重ねることで将来につながることを意識しながら受講してほしい。									
〔到達目標〕									
スポーツを理解するために必要な基本的な考え方を学び、説明することができる。 トレーニング(コンディショニングを含む)を実施するために必要なトレーニング理論理解し、説明することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
前半：MMTの教科書、解剖学の教科書等の身体の構造が分かるもの。 後半：配布資料									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	授業オリエンテーション、実技実習の諸注意、 触診とストレッチ①				下肢の触診、ストレッチを知ることができる				
2	触診とストレッチ②				下肢の触診、ストレッチを行うことができる、 頸部の触診、ストレッチを知ることができる				
3	触診とストレッチ③				胸部の触診、ストレッチを知ることができる				
4	触診とストレッチ④				上肢の触診、ストレッチを行うことができる				
5	触診とストレッチ⑤				腰部の触診、ストレッチを行なうことができる				
6	触診とストレッチ⑥				下肢の触診、ストレッチを行うことができる				
7	トレーニングの原理・原則				トレーニングの原理・原則について説明することができる、				
8	触診と筋トレ①				上肢・下肢・体幹の触診、筋トレを知る				
9	触診と筋トレ②				上肢・下肢・体幹の触診、筋トレを行うことができる				
10	コーディネーショントレーニング				コーディネーションについて知る				
11	スポーツと栄養				スポーツに必要な栄養について知る				
12	パフォーマンスUpのためのエネルギー特性の分析				競技特性とエネルギー産出系について分析することができる、				
13	パフォーマンスUpのための姿勢/動作の分析				パフォーマンスUpのための姿勢/動作を分析することができる、				
14	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、理解が不十分な部分を把握するとともに、その理解度を高める。				
15	まとめ				理解が不十分な部分の理解度を高める。				
〔評価について〕				〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 授業開始時の小テスト（50%），期末テスト（50%）とする、				毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。 お互いの身体を使いながらストレッチ等の実技を行うことがある。 毎回、Tシャツはハーフパンツ等の動ける服装を用意すること。 授業内容は変更になることがある。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								岩佐 浩之			
コミュニケーション論				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
創業100年の老舗の三代目として、飲食店を経営し、また多岐にわたりビジネスを立ち上げ(国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど)現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業までを経験する。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが心理学をわかりやすく講義します。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション…1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
毎回の授業で配布					世の中の動きを見て質問する						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	コミュニケーションの基本					皆が考えるコミュニケーションを統一する。 コミュニケーションとは何か、自分の考えを書く。					
2	コミュニケーションの領域					自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション1対多のコミュニケーションを知る					
3	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション					言葉と態度で相手に伝える技術を身に付ける					
4	トラブル・怒りを対象にしたコミュニケーション					アンガーマネジメントについて学び対処法を身に付ける。					
5	サービスマインド					顧客満足・対人者の満足について理解し実践できる。					
6	自己覚知					客観的に自分の心のクセを知る。					
7	分析					嫌いなタイプ・考え方・好きなタイプ					
8	定期試験										
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕					〔特記事項〕						
期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					ーコマは、ジグソーパズルのワンピースのようなものです。欠席した際は、情報を取って補ってください。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		解剖学Ⅰ						中村 陽市			
				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、組織・消化器系・循環器系についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕 教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院、配布プリント					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することをが望ましい。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	総論、組織学				解剖学とは何か、身体を構成している組織について説明できる。						
2	骨格系、消化器系				骨の名称を覚え、消化器系の形態と機能を説明できる。						
3	消化器系：口腔、咽頭				口腔・咽頭を説明できる。						
4	消化器系：食道、胃				食道・胃の構造と機能を説明できる。						
5	消化器系：小腸				小腸の構造と機能を説明できる。						
6	消化器系：大腸				大腸の構造と機能と特徴を説明できる。						
7	消化器系：肝臓、膵臓、胆嚢、腹膜				肝臓・膵臓・胆嚢・腹膜の構造と機能を説明できる。						
8	循環器系：血管				血管（動静脈、毛細血管）の構造と機能と特徴を説明できる。						
9	循環器系：心臓				心臓の位置、各部の名称、弁の機能を説明できる。						
10	循環器系：心臓、動脈系				刺激伝導系、大動脈の名称を述べることができる。						
11	動脈系：頭頸部に分布する動脈				総頸動脈から分枝する動脈の名称と機能を説明できる。						
12	動脈系：上肢、下肢、腹部に分布する動脈				上・下肢、腹部に分布する動脈の名称と機能を説明できる。						
13	静脈系：特殊循環系、胎生期の循環系				特殊循環系および胎児循環を説明できる。						
14	リンパ系				リンパ系の構造と機能を説明できる。						
15	期末試験										
〔評価について〕 小テスト（3回）30点満点＋期末試験70点満点で59点以下を不合格とする					〔特記事項〕						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員		中村 陽市	
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
解剖学Ⅰ											
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、呼吸器系・神経系についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院、配布プリント						専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することをが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	呼吸器系：鼻腔、咽頭					鼻腔、咽頭の構造と機能を説明できる。					
2	呼吸器系：喉頭、気管、気管支					喉頭、気管、気管支の構造と機能、発声の仕組みについて説明できる。					
3	呼吸器系：肺					肺の構造を説明できる。					
4	呼吸器系：胸膜、縦郭					胸膜、縦郭の構造を説明できる。					
5	神経系総論：神経系の区分、神経組織					神経系の構造と機能を説明できる。					
6	髄膜、脳室系					髄膜と脳室系の構造と機能を説明できる。					
7	中枢神経系：脊髄					脊髄の構造と働きを説明できる。					
8	中枢神経系：脊髄					脊髄の構造と働きを説明できる。					
9	上行性伝導路、下行性伝導路：錐体路、錐体外路					上行性伝導路の経路、下行性伝導路（錐体路・錐体外路）を説明できる。					
10	視覚伝導路、嗅覚伝導路、脊髄反射					視覚伝導路・嗅覚伝導路・脊髄反射を説明できる。					
11	中枢神経系：延髄、橋					延髄・橋の構造と機能を説明できる。					
12	中枢神経系：延髄、橋					延髄・橋の構造と機能を説明できる。					
13	中枢神経系：網様体、中脳、小脳					網様体・中脳・小脳の構造と機能を説明できる。					
14	中枢神経系：間脳					間脳の構造と機能を説明できる。					
15	大脳半球					大脳半球の構造を説明できる					
〔評価について〕					〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名		解剖学Ⅰ						中村 陽市			
		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、神経系についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院					専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することを望ましい。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	大脳基底核				大脳基底核の構造と機能を説明できる。						
2	大脳半球				大脳半球の機能局在構造と機能を説明できる。						
3	大脳半球				大脳半球の機能局在構造と機能を説明できる。						
4	脳神経				脳神経の名称と機能、障害を説明できる。						
5	脳神経				脳神経の名称と機能、障害を説明できる。						
6	泌尿器系：腎臓				腎臓の位置と構造を説明できる。						
7	泌尿器系：腎臓、尿管、膀胱				尿の生成と尿路を説明できる。						
8	生殖器系：男性生殖器				男性生殖器の構造と機能を説明できる。						
9	生殖器系：女性生殖器（卵巣、卵管）				卵巣と卵管の構造と機能を説明できる。						
10	生殖器系：女性生殖器（子宮、膣、外陰部）				子宮・膣・外陰部の構造・機能・特徴を理解する						
11	感覚器系：外皮、嗅覚器、味覚器				外皮・嗅覚器・味覚器の構造と機能を説明できる。						
12	感覚器系：視覚器				視覚器の構造と機能、障害を説明できる。						
13	感覚器系：視覚器				視覚器の構造と機能、障害を説明できる						
14	感覚器系：平衡聴覚器				平衡聴覚器の構造と機能を説明できる						
15	期末試験										
〔評価について〕					〔特記事項〕						
小テスト（3回）30点満点＋期末試験70点満点 で59点以下を不合格とする											

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員		
授業科目名		田中 信一								
運動機能論Ⅰ		必修 ・ 選択	必須	授業 形態	講義	時間数	30 (2)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）										
人間の運動機能の基礎となる骨格と関節の基礎を理解していく。 理学療法士を目指すものにとって、骨格、関節の構造を知ることが重要であり、三次元的な視点で個々の骨、関節の構造や位置を十分に理解しておく必要があることを念頭に受講してほしい。担当教員は、理学療法士として医療介護施設に勤務した経験があり、理学療法士の勤務経験に基づいて理学療法士養成に向けた授業を展開する。										
〔到達目標〕										
・骨名と各部位の名称、関節の名称を述べることができる。 ・骨、関節の構造、形態を分類できる。										
〔使用教材、参考文献等〕										
解剖学 第5版 （医学書院）										
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 第1章；解剖学総論 人体の概要と解剖学的用語				解剖学的位置、方向と位置を示す用語、身体の区分を述べる ことができる。					
2	第2章；第2章；骨格 人体の骨名称 骨格 骨の構造				人体の骨の名称を述べる ことができる。 骨の構造を述べる ことができる。					
3	第2章；骨格 骨学各論 胸郭、上肢帯、上腕骨（近位部）				各骨を区別できる。胸郭、上肢帯、上腕骨（近位部）の 各部位の名称を述べる ことができる。					
4	第3章；関節と靱帯 関節靱帯各論 上肢帯の連結、肩関節				上肢帯の連結、肩関節の名称を述べる ことができる。また、 関節の形態を分類 できる。					
5	第2章；骨格 骨学各論 上腕骨（遠位部）、橈骨、尺骨、手根骨、手 指骨				上腕骨（遠位部）、橈骨、尺骨、手根骨、手指骨の各部 位の名称を述べる ことができる。					
6	第3章；関節と靱帯 関節靱帯各論 肘関節、手根の関節				肘関節、手根の関節の名称を述べる ことができる。また、 関節の形態を分類 できる。					
7	第3章；関節と靱帯 関節靱帯各論 中手の関節、指の関節				中手の関節、指の関節の名称を述べる ことができる。また、 関節の形態を分類 できる。					
8	確認テスト 前半の振り返り				テストにより効果測定を行い、習得できていないところ を把握し、理解度 を深める。					
9	第2章；骨格 骨学各論 下肢帯、骨盤				下肢帯の各部位の名称を述べる ことができる。骨盤の構 造と性差を述べる ことができる。					
10	第2章；骨格 骨学各論 大腿骨 第3章；関節と靱帯 関節靱帯各論 股関節				各骨を区別できる。大腿骨の特徴を述べる ことができる。股関節の 特徴を説明 できる。					
11	第2章；骨格 骨学各論 脛骨、腓骨 第3章；関節と靱帯 関節靱帯各論 膝関節、足関節				各骨を区別できる。脛骨、腓骨の特徴を述べる ことができる。膝、足関節の 特徴を説明 できる。					
12	第2章；骨格 骨学各論 足根骨、中足骨、趾骨 第3章；関節と靱帯 関節靱帯各論 足部の関節				各骨を区別できる。足根骨、中足骨、趾骨の各部位の 名称を述べる ことができる。					
13	第2章；骨格 骨学各論 脊柱の骨 第3章；関節と靱帯 脊柱の連結				脊柱の骨の各部位の名称を述べる ことができる。また、 関節の形態を分類 できる。					
14	第2章；骨格 骨学各論 頭蓋 第3章；関節と靱帯 頭蓋				頭蓋の骨の各部位の名称を述べる ことができる。また、 関節の形態を分類 できる。					
15	期末テスト 後半の振り返り				運動機能論で学習した内容のまとめを通じて、習得でき ていないところを把握し、理解度 を深める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕					
小テスト、課題（20％）					小テスト（または課題）は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれ る。					
確認テスト（40％）										
期末テスト（40％）										

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員		
授業科目名		田中 信一								
運動機能論Ⅱ		必修 ・ 選択	必須	授業 形態	講義	時間数	30 (2)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）										
人間の運動機能の基礎となる筋系の基礎を習得する授業を行なう。筋を理解することは、機能評価、動作の分析、ストレッチ、筋力トレーニング、動作練習と様々な分野につながる。理学療法士を目指すものにとって、個々の筋の起始・停止、走行、作用、支配神経やその髄節レベルを熟知しておく必要があることを念頭に受講してほしい。担当教員は、理学療法士として医療介護施設に勤務した経験があり、理学療法士の勤務経験に基づいて理学療法士養成に向けた授業を展開する。										
〔到達目標〕										
・個々の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。 ・筋の配置を述べることができる。 ・筋の特徴を区別することができる。										
〔使用教材、参考文献等〕										
解剖学 第5版 （医学書院）										
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 第4章；筋系 上肢帯の筋				骨格筋の構造を述べることができる。骨格筋の形状、作用を区別できる。					
2	第4章；筋系 筋学各論 肩関節の筋、胸筋群				上肢帯の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
3	第4章；筋系 筋学各論 上腕の屈筋群、伸筋群				上腕の屈筋群、伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
4	第4章；筋系 筋学各論 肩甲帯の筋				肩甲帯の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
5	第4章；筋系 筋学各論 肩甲帯の筋、前腕屈筋群				肩甲帯の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
6	第4章；筋系 筋学各論 前腕の屈筋群、前腕の伸筋群				前腕の屈筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
7	第4章；筋系 筋学各論 前腕の伸筋群、手の筋				前腕の伸筋群、手の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
8	確認テスト 解説、				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	第4章；筋系 筋学各論 内・外寛骨筋群				内・外寛骨筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
10	第4章；筋系 筋学各 大腿伸筋群、大腿の内転筋群				大腿伸筋・内転筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
11	第4章；筋系 筋学各論 大腿屈筋群、下腿伸筋群				大腿屈筋群、下腿伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
12	第4章；筋系 筋学各論 腓骨筋群、下腿屈筋群				腓骨筋群、下腿屈筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
13	第4章；筋系 筋学各論 頸部の筋 腹部、背部の筋				頸部、腹部、背部の作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
14	第4章；筋系 筋学各論 咀嚼筋、表情筋				咀嚼筋、表情筋の作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。					
15	総括 期末試験				運動機能論で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕				〔特記事項〕						
課題 20％ 確認テスト40％ 期末テスト40％				課題は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれる。別途、Formsの問題を配布する各自予習、復習に活用すること。授業では筋の触診法も紹介する。自分の身体で確かめ復習することを勧める。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								曾我 浩之			
生理学				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
生理学Ⅰでは、外界の情報を得るための感覚器、外界の変化に対応して行動するための運動器と、両者の間に立って情報を処理し、運動を指令する神経系について学ぶ。解剖学では体の構造を学ぶのに対し、生理学は体の機能を知ることが目的とする。そのため生理学の学習は「覚える」ことより「理解する」ことが大切であることに注意して取り組んでほしい。											
〔到達目標〕											
ヒトが外界の情報を得るための感覚器、外界の変化に対応して行動するための運動器と、両者の間に立って情報を処理し、運動を指令する神経系についての基礎的事項を理解し、説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版(医学書院)					授業前の予習として当日分の教科書を読んでおくこと。授業後はノートを整理し、「理解度確認テスト」に取り組むこと。						
毎回講義ノートを配布する											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	生理学で何を学ぶか				生理学の基礎的な用語について説明できる						
2	細胞の生理学 (1)				細胞の構造と機能について説明できる						
3	細胞の生理学 (2)				静止電位、活動電位、興奮の伝導について説明できる						
4	神経の生理学				神経系の機能とシナプス伝達について説明できる						
5	筋の生理学 (1)				骨格筋、平滑筋の構造と機能について説明できる						
6	筋の生理学 (2)				骨格筋収縮の特性、筋と運動について説明できる						
7	骨の生理学				骨の構造と機能について説明できる						
8	中枢神経系の生理学 (1)				脊髄、脳幹の機能について説明できる						
9	中枢神経系の生理学 (2)				小脳、間脳、大脳の機能について説明できる						
10	中枢神経系の生理学 (3)				高次脳機能、伝導路・髄液の機能について説明できる						
11	感覚の生理学 (1)				感覚の一般的特性と体性感覚について説明できる						
12	感覚の生理学 (2)				視覚について説明できる						
13	感覚の生理学 (3)				聴覚・味覚・嗅覚について説明できる						
14	生理学Ⅰ講義内容のまとめ				生理学Ⅰで何を学んだかを説明できる						
15	期末試験				期末試験による理解度の把握と解説						
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は学則規定に準じ、理解度確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。					毎回の授業ごとに配布する講義ノートは、あくまで板書の代わりになるものであり、これを基に各自が自分のノートを作成すること。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								曾我 浩之			
生理学				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
生理学Ⅱでは、循環、呼吸、消化、排泄など体内の環境を一定に保つための機構と、その調節を行う自律神経、ホルモンについて学ぶ。 解剖学では体の構造を学ぶのに対し、生理学は体の機能を知ることが目的とする。そのため生理学の学習は「覚える」ことより「理解する」ことが大切であることに注意して取り組んでほしい。											
〔到達目標〕											
循環、呼吸、消化、排泄など体内環境を一定に保つための機構と、その調節を行う自律神経、ホルモンについての基礎的事項を理解し、説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版(医学書院)					授業前の予習として当日分の教科書を読んでおくこと。授業後はノートを整理し、「理解度確認テスト」に取り組むこと。						
毎回講義ノートを配布する											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	血液の生理学					血液の機能について説明できる					
2	循環器の生理学 (1)					循環器の機能、心電図について説明できる					
3	循環器の生理学 (2)					血圧と心臓の収縮特性について説明できる					
4	循環器の生理学 (3)					血液循環とその調節について説明できる					
5	内蔵機能の調節 (1)					自律神経系について説明できる					
6	内蔵機能の調節 (2)					内分泌系とヒトのホルモンについて説明できる					
7	呼吸器の生理学					呼吸器の機能について説明できる					
8	泌尿器の生理学					泌尿器の機能について説明できる					
9	体液と体温					体液の機能と体温の調節について説明できる					
10	栄養素と代謝					栄養素と代謝について説明できる					
11	消化器の生理学 (1)					消化管の機能について説明できる					
12	消化器の生理学 (2)					栄養素と吸収、肝臓の機能について説明できる					
13	生殖と発生 (1)					生殖器の機能について説明できる					
14	生殖と発生 (2)					ヒトの発生・成長・老化について説明できる					
15	期末試験					期末試験による理解度の把握と解説					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は学則規定に準じ、理解度確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。					毎回の授業ごとに配布する講義ノートは、あくまで板書の代わりになるものであり、これを基に各自が自分のノートを作成すること。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講 区分	前期	担当教員 鈴木 広大			
授業科目名				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業 回数	30
運動学											

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

回復期リハビリテーション病院、急性期病院、整形外科クリニックで実務経験を持つ理学療法士が、理学療法士になるにあたって、必要な運動の知識をバイオメカニクス、解剖学、生理学などの多くの観点より授業を行う。
毎授業、しっかり復習を行い、必要な知識を身につけられるようにしてもらいたい。

〔到達目標〕

- 1)運動の基礎理論・生体の構造と機能に関するキーワードに慣れ、理解に続ける。
- 2)生体の運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。

〔使用教材、参考文献等〕

基礎運動学(医歯薬出版)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 身体運動の面と軸、 運動の種類	運動学で学ばなければならない内容を、理解することができる
2	生体力学の基礎 テコ モーメント 単位 ベクトルなど	運動を理解するうえで必要な運動の名称や力学などを覚える
3	運動学習	運動を学習する仕組みを覚える
4	骨格筋構造学	筋肉の構造や収縮の仕組みを覚える
5	肩関節の運動学1	上肢の解剖学的構造と運動の名称などを覚える
6	肩関節の運動学2	肩甲骨の挙上・下制・内転・外転の運動に作用する筋肉を覚える
7	肩関節の運動学3	肩甲骨の上方回旋と下方回旋の運動に作用する筋肉を覚える
8	肩関節の運動学4	肩関節屈曲・伸展運動に作用する筋肉を覚える
9	肩関節の運動学5	肩関節外転・内転運動に作用する筋肉を覚える
10	肩関節の運動学6	肩関節外旋・内旋運動に作用する筋肉を覚える
11	肩関節の運動学7	肩関節水平屈曲・水平伸展運動に作用する筋肉を覚える
12	肘関節の運動学 1	肘関節の解剖学的構造と運動を学ぶ
13	肘関節の運動学 2	肘関節屈曲・伸展運動に作用する筋肉を覚える
14	肘関節の運動学 3	前腕の回内・回外運動に作用する筋肉を覚える
15	手指の運動学 1	手指の解剖学的構造と運動を覚える

〔評価について〕

評価は小テストと期末テストで行う。
小テスト（50点）期末テスト（50点）

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講 区分	前期	担当教員 鈴木 広大			
授業科目名 運動学				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
回復期リハビリテーション病院、急性期病院、整形外科クリニックで実務経験を持つ理学療法士が、理学療法士になるにあたって、必要な運動の知識をバイオメカニクス、解剖学、生理学などの多くの観点より授業を行う。 毎授業、しっかり復習を行い、必要な知識を身につけけるようにしてもらいたい。											
〔到達目標〕											
1) 運動の基礎理論・生体の構造と機能に関するキーワードに慣れ、理解に繋げる。 2) 生体の運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。											
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学(医歯薬出版)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	手指の運動学2					手関節背屈・底屈・橈屈・尺屈に作用する筋肉を覚える					
17	手指の運動学3					手指の屈曲に作用する筋肉を覚える					
18	手指の運動学4					手指の伸展に作用する筋肉を覚える					
19	上肢の運動学まとめ 1					上肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
20	上肢の運動学まとめ 2					上肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
21	上肢の運動学まとめ 3					上肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
22	体幹の運動学 1					体幹の解剖学的構造と運動を覚える					
23	体幹の運動学 2					体幹の屈曲・伸展運動に作用する筋肉を覚える					
24	体幹の運動学 3					体幹の側屈・回旋運動に作用する筋肉を覚える					
25	体幹の運動学 4					体幹の呼吸に作用する筋肉を覚える					
26	体幹の運動学まとめ 1					体幹に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
27	体幹の運動学まとめ 2					体幹に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
28	体幹の運動学まとめ 3					体幹に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
29	期末試験					前期に学んだ内容の復習としてテストを行い、覚えられていないことの抽出を行う					
30	テスト返しと復習					テストを通して出来なかったところを抽出し復習を行う					
〔評価について〕 評価は小テストと期末テストで行う。 小テスト（50点）期末テスト（50点）					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								鈴木 広大			
運動学				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
回復期リハビリテーション病院、急性期病院、整形外科クリニックで実務経験を持つ理学療法士が、理学療法士になるにあたって、必要な運動の知識をバイオメカニクス、解剖学、生理学などの多くの観点より授業を行う。 毎授業、しっかり復習を行い、必要な知識を身につけるようにしてもらいたい。											
〔到達目標〕											
1) 運動の基礎理論・生体の構造と機能に関するキーワードに慣れ、理解に繋げる。 2) 生体の運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。 3) 基本動作の基礎を理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕											
基礎運動学(医歯薬出版)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	股関節の運動学 1					骨盤・股関節の構造を学び、理解する。					
2	股関節の運動学 2					骨盤の運動に作用する筋肉を覚える					
3	股関節の運動学 3					股関節の屈曲・伸展の作用筋を覚える。					
4	股関節の運動学 4					股関節の外転・内転の作用筋を覚える。					
5	股関節の運動学 5					股関節の外旋・内旋の作用筋を覚える。					
6	膝関節の運動学 1					膝関節の構造を学び、理解する。					
7	膝関節の運動学 2					膝関節の屈曲・伸展に作用する筋肉を覚える。					
8	足関節・足趾の運動学 1					足関節・足趾の構造を学び理解する。					
9	足関節・足趾の運動学 2					足関節の背屈・底屈に作用する筋肉を覚える。					
10	足関節・足趾の運動学 3					足関節の回内・回外・外返し・内返しに作用する筋肉を覚える。					
11	足関節・足趾の運動学 4					足趾関節の屈曲に作用する筋肉を覚える。					
12	足関節・足趾の運動学 5					足趾関節の伸展に作用する筋肉を覚える。					
13	下肢の運動学まとめ 1					下肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
14	下肢の運動学まとめ 2					下肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
15	下肢の運動学まとめ 3					下肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は小テストと期末テストで行う。 小テスト(50点) 期末テスト(50点)					実践が入る授業では、動ける服装をすること。 提出物は、期限を守ること。正当な理由がない場合や事前の相談なく提出された場合は点数を与えない。(正当な理由なく期限を過ぎてからの相談は受け付けないので注意)						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								鈴木 広大			
運動学				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
回復期リハビリテーション病院、急性期病院、整形外科クリニックで実務経験を持つ理学療法士が、理学療法士になるにあたって、必要な運動の知識をバイオメカニクス、解剖学、生理学などの多くの観点より授業を行う。 毎授業、しっかり復習を行い、必要な知識を身につけけるようにしてもらいたい。											
〔到達目標〕											
1) 運動の基礎理論・生体の構造と機能に関するキーワードに慣れ、理解に繋げる。 2) 生体の運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。 3) 基本動作の基礎を理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕											
基礎運動学(医歯薬出版)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	基本的動作 1 (背臥位→寝返り→起き上がり)					基本動作を構成する要素を学び、理解する。					
17	基本的動作 2 (座位→立ち上がり→立位)					基本動作を構成する要素を学び、理解する。					
18	歩行 1 (歩幅・ストライドなど)					歩行時の歩幅やストライドなど用語の意味を理解し覚える。					
19	歩行 2 (ロッカーファンクション機能など)					ロッカーファンクション機能とはどのようなものなのか理解し覚える。					
20	歩行 3 (イニシャルコンタクト・ローディングレスポンス)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。					
21	歩行 4 (ミッドスタンス・ターミナルスタンス)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。					
22	歩行 5 (プレスイング・イニシャルスイング)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。					
23	歩行 6 (ミッドスイング・ターミナルスイング)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。(授業内課題歩行レポート提出25点分)					
24	歩行 7 (病的歩行)					各疾患別の歩行の問題点を理解しその特徴を覚える。					
25	顔面・頸部の運動学 1					顔面・頸部の運動に作用する筋肉を覚える					
26	顔面・頸部の運動学 2					顔面・頸部の運動に作用する筋肉を覚える					
27	運動に必要なエネルギーについて					運動に必要なエネルギーについて学ぶ					
28	復習					後期の運動学で学んだ内容を復習する					
29	期末テスト					後期の運動学で学んだ内容を試験にて想起させ、覚えていない部分などの抽出する。					
30	期末テスト返却・復習					後期運動学期末試験を通して、出来なかった部分の復習を行う。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は小テストと期末試験で行う。 小テスト (50点) 期末テスト (50点)					実践が入る授業では、動ける服装をすること。 提出物は、期限を守ること。正当な理由がない場合や事前の相談なく提出された場合は点数を与えない。(正当な理由なく期限を過ぎてからの相談は受け付けないので注意)						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名						松野 竜一郎			
人間発達学		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
人間発達の基礎および運動発達と反射について学び、小児から成人における正常運動および異常運動の理解に役立てる									
〔到達目標〕									
乳幼児の発育について知り、運動発達と反射についての理解を深める									
〔使用教材、参考文献等〕									
運動発達と反射（医歯薬出版）									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション、人間発達とは			人間発達学とは何かを知る					
2	発達の定義と発達の原則			発達とは何か、原則を知る					
3	乳幼児の形態と機能の発達			乳幼児の発育の基礎的な知識を得る					
4	運動発達と反射：反射とは、運動制御と神経発達			反射とは何か、神経発達の説について知る					
5	反射を知る目的と用語			反射とは何かを知る、目的と用語を理解する					
6	原始反射（1）			原始反射の具体的な刺激と反応を知る					
7	原始反射（2）			原始反射の具体的な刺激と反応を知る					
8	確認テストと振り返り			原始反射の具体的な刺激と反応を知る					
9	原始反射（3）			原始反射の具体的な刺激と反応を知る					
10	原始反射（4）			原始反射の具体的な刺激と反応を知る					
11	原始反射（5）			原始反射の具体的な刺激と反応を知る					
12	立ち直り反応（1）			立ち直り反応の具体的な刺激と反応を知る					
13	立ち直り反応（2）			立ち直り反応の具体的な刺激と反応を知る					
14	平衡反応			平衡反応の具体的な刺激と反応を知る					
15	期末試験と振り返り			試験で振り返る					
〔評価について〕			〔特記事項〕						
小テスト2割、確認テスト3割、期末試験5割の総合点で判定する									

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	森 洋行		
				救急医学				時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数
〔授業の学習内容と心構え〕										
ライフセーバーとして救命現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救命現場の実際を交えながら授業を行う。 ライフセービングの精神を理解することで単にBLS(Basic Life Support)の技術的な習得で完結するのではなく、 大切な人の命を見つめ、社会復帰率の向上に貢献できるようにする。										
〔到達目標〕										
生命教育を通じ、救急隊・医師へと引き継ぐまでの数分間の視点(バイスタンダー)をもって、救急救命を“知っている”という体験レベルから“生命を救うことが出来る”という実践レベルへ、質の高い知識と技術の習得を目指す。 日本ライフセービング協会公認BLS資格を取得する。										
〔使用教材、参考文献等〕 「心肺蘇生教本」 （日本ライフセービング協会） 教材：レサシアン、AED 参考図書：「AT専門課程テキスト・救急処置」 JSPO					〔準備学習・時間外学習〕 授業で行ったことを反復練習により確実に身に付けられるようにする。自身の行動範囲においてAED設置場所を確認しておく。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 心肺蘇生の意義と理論、気道異物除去					一次救命処置の重要性と救命の連鎖を理解する 心肺蘇生の意義と理論を理解する				
2	心肺蘇生の実際					心肺蘇生の手順を習得する				
3	治療の優先順位について AEDの必要性と操作手順、RICE処置					AEDの必要性を理解する				
4	熱中症への対処と予防、心肺蘇生の実際 小児・乳児の一次救命処置					AEDの手順を習得する 小児・乳児の心肺蘇生を理解する				
5	外傷時の救急処置1（創傷の種類と止血法） 心肺蘇生の実際					皮膚などに傷のあるけがの処置を習得する 救命率を上げる質の高い心肺蘇生を習得する				
6	外傷時の救急処置2（熱傷）、運搬法 心肺蘇生の実際					救命率を上げる質の高い心肺蘇生を習得する				
7	BLS資格実技検定及び解説、心肺蘇生の実際（2人法）、新型コロナウイルス感染症を踏まえたBLS					正しい心肺蘇生の一連動作を実施する				
8	期末試験、BLS資格学科検定					日本ライフセービング協会公認BLS資格を取得する				
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
〔評価について〕 評価は期末試験（筆記60点）及びBLS資格検定（学科および実技40点）で行う。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 動きやすい服装（女性はズボン着用）が望ましい。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								繁森 将太			
リハビリテーション概論				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数	15(1)	授業回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療人としての事象の捉え方、対応を身につけるために、リハビリテーションとは何かについて、その理念と歴史的背景、障がいの概念、リハビリテーションの過程、医療福祉制度の知識を身につける授業を臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が行なう。授業では、必要に応じてテーマを設定し、グループで発表を行う。理解を深めるため、積極的に参加してほしい。											
〔到達目標〕											
・リハビリテーションの定義、領域、過程を理解し、説明することができる。 ・リハビリテーションに関わる法律および制度を区別することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
参考文献：入門リハビリテーション概論（医歯薬出版） 理学療法概論テキスト改訂3版（南江堂）											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	リハビリテーションの理念、定義、語源					リハビリテーションの理念、定義について説明することができる。					
2	リハビリテーションの歴史 障がい者の「自立」とノーマライゼーション 医療、保健、社会福祉とリハビリテーションの関わり方 リハビリテーションの領域					リハビリテーションの領域を区別することができる。					
3	健康と障がいの概念と障がい受容 ICIDHとICF					健康と障がいの概念と障がい受容について説明することができる。					
4	ICIDHとICFの具体例 ICIDHとICFのメリットとデメリット					ICIDHとICFの項目を区別し、要素を分類することができる。					
5	リハビリテーションに関わる法律および制度					リハビリテーションに関わる法律および制度を区別することができる。					
6	リハビリテーションにおける重要事項 インフォームドコンセント、チーム医療、EBM、個人情報保護法					リハビリテーションにおける重要事項のキーワードを説明できる。					
7	リハビリテーション現場における理学療法士					理学療法士の仕事のやりがいを説明できる。					
8	総括 定期試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は小テストおよびオンライン試験で行う。 レポート課題40% 定期試験60%					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 出席：3コマ欠席にて単位なし						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名		山本 敏之									
理学療法概論		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕											
医療・介護福祉領域の臨床現場で実務経験のある教員が、理学療法に関わる基礎的な概要や職業内容、法制度に関する講義を行う。初期はティーチングを主とし徐々に自ら考え実践できるように進め、知識の修得を目指す。また、座学を主とし実施していくがグループワークも取り入れ、学生同士での情報共有をすることで理解を深めてもらいたい。											
〔到達目標〕											
①理学療法の定義や具体的な内容、実際の流れなどを知り、理学療法士にまつわる法律や働く環境なども含めた概要を理解する。 ②理学療法士を目指すうえで最低限必要となる知識を身につける											
〔使用教材、参考文献等〕											
シンプル理学療法シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂第4版 南江堂											
配布資料											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	理学療法とは：理学療法の定義と各種技術について				理学療法の定義を理解し大まかな仕事内容のイメージをつける						
2	理学療法の実施過程				理学療法が行われる過程について理解する						
3	理学療法と障害：ICIDHとICFについて（＋実施計画書）				理学療法の目標設定をする際に必要な障害の考え方について理解する						
4	理学療法と障害：ICIDHとICFについて（＋実施計画書）				理学療法の目標設定をする際に必要な障害の考え方について理解する						
5	理学療法の実際の流れ（＋臨床的思考について）				実際の流れを通して理学療法士の仕事をより具体的に理解する						
6	理学療法の実際の流れ（＋臨床的思考について）				実際の流れを通して理学療法士の仕事をより具体的に理解する						
7	中間試験				現時点での知識・技術を確認し、不足している部分に対する振り返りを行うことでより理解度をUpする						
8	理学療法士とは：理学療法士の役割と理学療法の対象				障害の理解ができた上で、理学療法士として求められる役割を理解する						
9	理学療法士とは：理学療法士の役割と理学療法の対象				障害の理解ができた上で、理学療法士として求められる役割を理解する						
10	理学療法と診療報酬について：医療保険と介護保険				医療保険と介護保険について知り、理学療法に関わる報酬について理解する						
11	医療・福祉領域の現場の分類について （地域包括ケアシステムを含む）				理学療法士が活躍する医療・福祉における現場の種類を知り、それぞれの施設の特徴を理解する						
12	理学療法士にまつわる法律について				理学療法士および作業療法士法の概要について理解する						
13	理学療法士にまつわる法律について				理学療法士に関わる医療福祉関連の法律を理解する						
14	期末試験および振り返り				現時点での理解度を確認し、分からない部分に対する振り返りを行うことでより理解度をUpする						
15	まとめ				理学療法についての理解度をUpする						
〔評価について〕				〔特記事項〕							
中間試験、期末試験としてペーパーテストを行う。				授業外での実技練習を積極的に行なうことを推奨する。その際、臨床場面を想定し、実際の患者・選手を演じながら行なうことが望ましい。							

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名		繁森 将太									
理学療法基礎セミナー				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
理学療法士として対象者に接するために必要な接遇面やリスク管理を意識した検査測定について学ぶ。											
〔到達目標〕											
対象者への配慮・接遇について理解して対応できる。 リスク管理を意識しながら基本的な検査測定が実施できる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
配布資料					授業後には実施内容について復習をすること。 授業時間以外にも実技練習を実施すること。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	【オリエンテーション】授業の目的、試験概要説明					授業の目的を理解できる。 実技試験の概要を理解し試験に向けた準備ができる。					
2	接遇について					理学療法士として必要な接遇について理解し、意識した行動ができる。					
3	認知機能検査					認知機能検査が実施できる。					
4	血圧・脈拍測定					バイタルサイン（血圧、脈拍）の測定が実施できる。					
5	形態測定 上肢					形態測定が実施できる。					
6	形態測定 下肢					形態測定が実施できる。					
7	関節可動域測定① 上肢					関節可動域測定が実施できる。					
8	関節可動域測定② 上肢 頸部、胸腰部					関節可動域測定が実施できる。					
9	関節可動域測定③ 頸部、胸腰部、下肢					関節可動域測定が実施できる。					
10	関節可動域測定④ 下肢					関節可動域測定が実施できる。					
11	徒手筋力検査① 上肢					徒手筋力検査が実施できる。					
12	徒手筋力検査② 上肢 体幹					徒手筋力検査が実施できる。					
13	徒手筋力検査③ 体幹 下肢					徒手筋力検査が実施できる。					
14	徒手筋力検査④ 下肢					徒手筋力検査が実施できる。					
15	実技試験					実技試験を通じて自己の達成度について振り返りを行う。					
〔評価について〕 レポートにて評価 レポートは以下について記載 患者役、採点官、試験内容に関する報告書					〔特記事項〕						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								繁森 将太			
理学療法評価概論				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するののかを具体的に記載する）											
総合病院に勤務していた理学療法士が臨床で多く診られる疾患、怪我を例に上げながら必要な評価法を実技中心に実施する。理学療法を施行するにあたっての、適切な評価方法を学ぶ。安全な検査・測定を実施できるよう座学と実技にて授業を行なう。授業ごとに予習・復習を欠かさないよう充分留意すること。											
〔到達目標〕											
理学療法における身体機能の評価方法を正しく理解し、安全かつ正確に行なえるようになる。また、学んだ知識、技術を他者に分かりやすく、正確に伝えられるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
理学療法評価学 金原出版第6版リハビリテーション基礎評価学 第2版（羊土社） 新・徒手筋力検査法第10版、授業プリント											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	総論					評価を何のために行うのか理解できる。 検査の信頼性・正確性を理解できる。					
2	医療面接、情報収集					医療面接、情報収集を理解、実施できる。					
3	意識障害、全身状態の評価					覚醒状態、全身状態の評価方法を理解、実施できる。					
4	姿勢、形態測定①					形態測定を理解、実施できる					
5	形態測定②					形態測定を理解、実施できる					
6	関節可動域検査①					関節可動域検査を理解（リスク管理を含む）できる					
7	関節可動域検査②					上肢の基本軸、移動軸を理解し、可動域測定が実施できる					
8	関節可動域検査③					下肢の基本軸、移動軸を理解し可動域測定が実施できる					
9	関節可動域検査④					体幹の基本軸、移動軸を理解し、可動域測定が実施できる					
10	中間試験 徒手筋力検査①					9回までの内容のテスト。徒手筋力検査（段階）を理解できる。 上肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる					
11	徒手筋力検査②					上肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる					
12	徒手筋力検査③					上肢、下肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる					
13	徒手筋力検査④					下肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる					
14	徒手筋力検査⑤ 実技テスト説明					下肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる 実技テストの説明					
15	実技試験					後期の内容を総復習する。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
中間テスト筆記（50％） 実技テスト（50％）にて評価する。 上記で60％未満の場合、出席率（100％）、授業態度加味して最大10％加点を行う。					服装：動きやすい格好（例：半袖、半ズボン、ジャージ、ケイシー可、ジーンパン、チノパン、スカート、ワンピース不可） 触診があるため半袖半ズボンが好ましい。						